

フレキソ・樹脂凸版向け4,800dpi対応の新網点を発売 ～最大4,800dpiの高品位イメージング技術と網点技術により、さらなる高品質を実現～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー(社長：藤澤 恭平)はこのほど、解像度4,800dpiのイメージング技術を最大限に生かしたフレキソ・樹脂凸版向け新網点「Stabydot 4800(ステイビドット4800)」を開発。国内をはじめ世界市場に向けて、2009年9月末から販売を開始します。

近年、パッケージ印刷業界では、フレキソ・樹脂凸版印刷における製版設備のデジタル化とCTP装置の導入により、印刷品質の向上や工程の短縮が図られており、2006年秋に当社が発売した「PlateRite FX870(プレートライトエフエックス870)」の登場をきっかけに、樹脂凸版印刷向けCTPが普及し始めました。さらに最近では、高品位印刷が可能なワンパスフレキソ印刷機の浸透に伴い、高品質・高解像度を実現する製版システムの需要が拡大しています。

このような業界の動向を受けて当社が開発した新網点「Stabydot 4800」は、製版環境やインキ、基材などの印刷環境に応じて、4,800dpiという高解像度で最小網点形状をより細かく形成できるため、極度のハイライト部のグラデーション、特に最小点の点付きに関してスムーズで自然な結果が得られます。従来の2,400dpiよりも細かい、最小網点サイズ4,800dpiの高解像度に対応することで、以前よりもさらに微小なドットで出力イメージを構成しているほか、ベースとなる網点形状に補強パターンを追加し、ハイライト部のレリーフ形成を安定化。これにより、オフセット印刷と同等*のなめらかな階調再現と、フレキソ印刷ならではの濃度の高さを融合させた、高品位な印刷を実現します。同時に、出力解像度4,800dpiでは、印刷濃度の全域において、通常解像度で発生しやすい斜線や曲線のジャギーを大幅に低減し、細線の描画再現性が飛躍的に向上しています。

また、「Stabydot 4800」は、フレキソ・樹脂凸版印刷向けサーマルCTP装置「PlateRite FX870II」「PlateRite FX1524」でのレコーディングが可能です。両装置は、新設計の高出力露光ヘッドと、ドラムの回転を安定させるオートバランス機能を採用し、高生産性と同時に高品質な描画を実現しています。さらに、クランプ機構により印刷版の取り付けを簡略化できるなど、操作性にも優れています。

当社は、新たに「Stabydot 4800」をフレキソ・樹脂凸版関連製品のラインアップに加えることにより、世界市場の幅広いニーズを網羅し、関連市場におけるシェアのさらなる拡大を図ります。そして、フレキソおよび樹脂凸版印刷・製版業界のリーディングカンパニーを目指し、今後ますます多様化するユーザーニーズに応えていきます。

※ 200lpi相当

* 新網点「Stabydot 4800」は、9月23日から26日までベルギー・ブリュッセルで開催されるラベル印刷機材展「Labelexpo Europe 2009」に出展し、サンプル展示を行います。また国内では、10月6日から10日まで東京・有明「東京ビッグサイト」で開催される総合印刷機材展「JGAS 2009」で、同様にサンプル展示を行います。

● 本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 メディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー 管理統轄部 企画部
Tel 075-414-7610 Fax 075-417-2705 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目